

第4回気象予報士 CPD 制度創設準備委員会 議事録

日時：2011年2月18日(土) 14時00分～17時00分

場所：京橋プラザ区民館 2号洋室

・委員・事務局員及び出欠席(敬称略、以下同じ)

委員

田中 博 社団法人日本気象学会常任理事 教育と普及委員会 委員長
筑波大学生命環境科学研究科 教授

石井 伸幸 株式会社ライフビジネスウェザー 取締役 営業推進部 部長(欠席)

杉浦 幸彦 いであ株式会社執行役員 沿岸・海岸事業部 部長代理

高田 吉治 株式会社応用気象エンジニアリング 代表取締役 社長

田代 大輔 NPO法人気象キャスターネットワーク 事務局次長(欠席)

平松 信昭 一般社団法人日本気象予報士会 理事 副会長

(委員長)

オブザーバー

酒井 重典 一般社団法人日本気象予報士会 代表理事 会長

岩田 修 一般社団法人日本気象予報士会 専務理事 幹事長

事務局

平松 信昭 事務局長

雨宮 浩樹 一般社団法人日本気象予報士会 常務理事 法務担当幹事

與語 基宏 一般社団法人日本気象予報士会 常務理事 学術研究・CPD 担当幹事

議事

1. 委員長あいさつ

今回で4回になり、グランドデザインが見えてきたと思います。これから各論になってきますので、具体的に皆さんと議論を進めたいと思います。

2. 第3回の議事録確認

第3回の議事録案の説明後、出席者全員の了解を得て、第3回の議事録を確定した。

3. 建設系 CPD 協議会訪問報告

事務局より、1月20日に建設系 CPD 協議会を訪問した結果を資料により報告した。

- ・ 資格認定機関、学会、コンサルタント協会がそれぞれ CPD 認定をしており、いろいろな形態がある。講習会などは相互認証も行われている。個人の CPD 記録の保持は We

b上の電子記録の他、カードや手帳の方式もある。

- ・ 建設コンサルタント協会では、認定資格である RCCM は4年に1回の更新があり、更新のために一定の CPD ポイントが求められている。
- ・ 入口審査、出口審査とは？ 入口審査は CPD プログラムを実施前に内容を審査、出口審査は受講者の登録された内容を事後に審査する方式である。
- ・ 建設系 CPD 協議会は、気象予報士 CPD に対して参加を歓迎されているか？ 入会をお誘いされている雰囲気、大変協力的である。システム設計などでも支援の申し出を受けた。
- ・ 相互認証に加わらない単独の CPD 組織があるか？ 単独はなさそうである。

4. 気象予報士 CPD 制度創設準備書案の検討

事務局よりの「気象予報士 CPD 制度の創設準備書案」の説明を受け、内容を議論した。

1) 気象予報士 CPD 制度の概要

- ・ 「気象予報士制度の創設時に、資格の更新制度も検討された」の記述は、情報としてはあるが確認が必要。確認できなければ削除する。
- ・ 1.3 対象者で、「気象予報士有資格者と気象予報士を目指すもの」は、気象予報士 CPD の名称、有資格者は登録すれば気象予報士になる、目指すものは勉強中であり参加者を増やすことにもなるが、資格者の継続研鑽が目的なので、議論の結果対象者は気象予報士のみとする。
- ・ 1.4 相互認証では、「望ましい」は建設系 CPD 協議会に加入することの意味である。
- ・ 運輸系 CPD はないか？ 運輸系 CPD が無いかを確認する。
- ・ 建設関連にも気象は様々にかかわっているので、建設系に積極的に入るのは良い。

2) CPD プログラムの分野と形態

- ・ 教育分野の表示の順位は、基礎、専門が良いのではないか。
- ・ 予報士資格者だから今のままの専門でよい。事務局で検討する。
- ・ 表1の中で「関すること」が付いたり、付かなかったりする。分野と内容の表現を再整理する。事務局で整理する。
- ・ 2.3 教育形態で、講習会等での受講に学会主催の大会等も明記する。
- ・ 大会参加時のポイント（時間数）は自己申告か？ 自己申告である。
- ・ 2.4 取得目標と事例では、「制度の初年度」の扱いとして、過去の受講記録でもエビデンスがあれば認める方向で検討する。新しく予報士になった人は1年の実績で認定する。
- ・ 2.4 記録の監査で、全員監査は難しいので、無作為で1割程度の抽出を行って監査する。
- ・ 認定方法などは、他の CPD 組織とできるだけ横並びが良い。

3) CPD プログラムの認定

(特に意見無し)

4) システムの基本設計
(特に意見無し)

5) 運営費用等

- ・ 運営で赤字が出た場合はどうするか? 他の CPD 組織では、それを運営している組織が補填をしているようだ。しかし、予報士会や気象学会は余裕資金が無いのが現状である。

6) その他 準備委員会ですべきこと

- ・ 今後のスケジュール 準備委員会から運営委員会への移行のあり方を検討する。
- ・ 気象庁との調整を行う必要がある。
- ・ 準備委員会のまとめの資料の作成を作成し、公表する。
- ・ 具体的な管理と運営のシステムを設計する。
- ・ 運営予算をはっきりさせる必要がある。

5 . 次回の日程確認

2012 年 4 月 28 日 (土) 14 時 ~ 17 時

以上__